

No.12

みはら スポーツ推進委員だより



「三原市民体育大会とスポーツ推進委員の役割について」

三原市スポーツ推進委員協議会 会長 岸田 正樹

はじめに、スポーツ推進委員とは、と言うところで少しふれておきたいと思います。スポーツ推進委員は当該市町村の教育委員会から委嘱された、スポーツの推進のための事業の実施、連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導・助言を行う非常勤特別職職員です。

公的性格を有しているスポーツ推進委員は、地域におけるコーディネーター役として熱意と能力を有する者の中から委嘱をされており、身近なところの活動としては三原市民体育大会などの活躍の場をもっています。

三原市民体育大会も、平成17年の1市3町合併後、今年度で13回大会を迎えております。この間、全国でも珍しい市を挙げた大運動会として、市民に愛され、市民とともに歩んできた歴史の中の大会（合併前に55回の歴史あり）として今後も継承されていく事の中で、スポーツ推進委員としては、今以上の取り組み方(考え)を持ち活動の輪を広げて行きたいと思います。





第34回 白竜湖ふれあいグリーンマラソン大会



11月5日(日) 秋空の下、大和町にある白竜湖スポーツ村公園を
発着として、湖畔を望みながら健脚を競う、第34回白竜湖ふれ
あいグリーンマラソン大会が開催されました。(ロードレースの
他に、芋掘りや餅つきを楽しめるふれあいウォークもあり)



スポーツ推進委員は、1週間前に選手や役員への参加賞等の
袋詰め作業(約1300個)を終えて大会前日に会場やその周辺及びコースに至る事前準備(案内看板・ドーム
内のシート張等)をしました。大会当日は冷え込みの厳しい早朝より、参加される選手の皆さんが気持ちよ
くレースに臨んで頂ける様に、会場の案内や駐車場整理、受付、コース監察等を限られたスタッフで手分け
して行い、大会運営がスムーズになるように努めました。



レース開始時には、暖かく穏やかな天候となり、マラソンの部(891名)が3km、5km、10km、20kmのコース、
ふれあいウォークの部(213名)がAコース、Bコースに分かれて、元気に笑顔でそれぞれのスタート(時間
差有)をされました。選手お一人お一人が日頃のランニング・ウォーキングの成果を自分のペースでしっか
りと刻まれていてスタッフとして声援にも熱が入りました。そうした中で、選手の方から「ありがとう」や
「がんばります」という返答に元気を頂きました!! また、この日の為に5ヶ月も前から準備したサツマイ
モを喜んで持ち帰ってもらえて良かったです。

そんな選手や家族が集うアットホームなこの大会は、多くのボランティア・スタッフの皆様に支えられ
開催することが出来ています。終わりになりますが、お忙しいところご参加ご協力頂きまして、本当に有
難うございました。次回もよろしくお願ひ致します。~~~~~



第58回 全国スポーツ推進委員研究協議会 茨城大会 「ファンスポーツ!」～すべての人にスポーツの楽しさを～

レポート

11月9日(木)・10日(金)つくば市にて、全国各地から3000名を超える参加者で盛大に開催されました。1日目、開会行事に続き、表彰式で口脇委員が30年勤続スポーツ推進委員表彰で感謝状を受けられました。

前東北楽天ゴールデンイーグルス監督 大久保 博元氏による「私の野球人生」と題して講演がありました。1984年ドラフト1位で西武ライオンズに入団、読売巨人と通算で10年、引退後コーチ、解説者、監督と活躍されたことを、汗を拭いながら全身で感情を表し話される姿に現役時代「デーブ」の愛称でファンを魅了していた頃を思い出しました。



2日目は、〈第2分科会〉に参加し「誰もがどこでも楽しく」～スポーツの力で心身の健康保持増進を～として3事例の発表があり、スポーツ推進委員の行動力に敬服しました。地域の現状を把握し、出来ることから少しずつ積み重ね県内の大会を開催したり、震災後の現地に向いて「心身共の健康づくり」の支援活動や栄養学的サポートなど、活動内容が拡大していました。スポーツ推進委員の役割としての活動に知識と専門分野の協力が必要不可欠になってきていることに共感しました。今後の活動に大変勉強になり充実した研究大会でした。

平成29年度 県総合マネジメント研修会 (兼)ファミリー健康体力向上事業伝達講習会

12月3日(日)安芸高田市にて、県内各地から230名、三原市からは17名の委員が参加しました。

子ども達の体力向上に取り組んでいる美土里小学校教諭 品川 佳祐氏の講演と子ども達によるラジオ体操の模範演技を見聞しました。全国トップクラスに入る児童の演技に感動しながら、ラジオ体操を少し安易に考えていたことを恥ずかしく思いました。

午後からは「健康寿命を延ばすために」と題して、中央講習会に参加した3名の他市町の委員から体力測定の指導を受け、熱の入った実技研修となりました。この研修により各市町で行われている体力測定会で測定結果と判定をもとに個人個人の運動習慣や体力レベルに応じた健康・体力づくりのアドバイスが出来るようになれば大きな成果になるのではないのでしょうか。



出前講座

スポーツ推進委員は出前講座で指導しています。



*今年度は、市内13の会場へ
出向かせていただきました。



「元気になる会」でペタンクの指導を行いました。この会は、10年くらい前から毎年行っており、お互いに楽しい恒例行事になりました。休憩をとり世間話をしながらのあつという間のひと時でした。

10/20(金)午後～：幸崎地区

*講座の指導準備として研修も
かかさず取り組んでいます。



ニュースポーツのドッジビーの研修をしている委員。はじめてのディスクに力加減がわからず戸惑うことも...

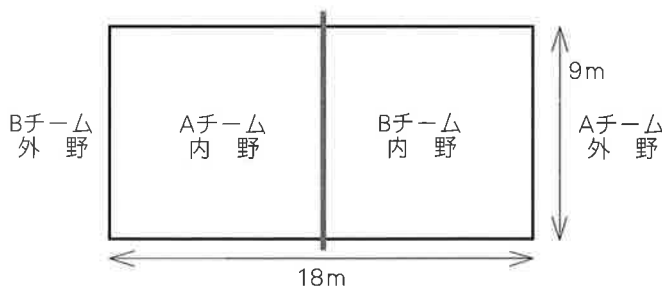
※出前講座のメニューには、ビーチボールパレー・ペタンク・楽しもうニュースポーツ等があります。

ニュースポーツ ドッジビーの紹介

ドッジビーは、ドッジボールの「ドッチ」とフリスビーの「ビー」を合わせた造語です。競技内容はその名が示すとおり、フライングディスクを用いてドッジボールを行うというもの。



「ドッジビー」は、9m×18mのコート(6人制バレーボールコート同様の大きさ)で、ソフトディスクを使用して1チーム13人で行うドッジボール形式のゲームです。



バレーコートと同じサイズ!



相手チームにディスクを当てられたプレイヤーは外野に出なければならず、相手チームにディスクを当てた外野のプレイヤーは内野に入ることができます。決められた時間内に、相手チームよりも多くのプレイヤーが内野に残っていたチームが勝ちとなります。尚、ドッジボールと区別するため、「ドッジビー」ではなく「ドッジビー」を種目名称としています。ソフトディスクを使用するため怪我が少ない一方で、短時間で運動量を確保できる種目です。

(日本ドッジビー協会資料抜粋)

小学生の頃、放課後によく遊んでいたドッジボールの懐かしいルールと柔らかで痛くないディスクを使う面白いスポーツです。



当たっても痛くないよ♪



※出前講座の申し込みは、スポーツ振興課へご連絡ください。



編集発行/三原市スポーツ推進委員協議会 広報・渉外部
事務局/三原市教育委員会スポーツ振興課 TEL:0848-64-7219